

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和7年9月22日（月） 15時30分～

〈開催場所〉

宇治市観光センター 2階会議室

〈出席者〉

➤ 委員

長積 仁（会長）	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
佐野 恵理子（会長職務代理）	（一財）宇治市スポーツ協会 副会長
小川 由智	宇治市健康づくり・食育アライアンス 副代表
佐藤 朋子	宇治市スポーツ少年団 副本部長
松村 尚	（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
西山 正一	宇治市体育振興会連合会 副会長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事

計7名

➤ 事務局等

脇坂 英昭	産業観光部 部長
齊藤 政也	産業観光部 副部長
吉田 知史	産業観光部 文化スポーツ課 課長
菅居 聖承	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 係長
竹本 剛	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
伊藤 大志	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
前田 輝里	産業観光部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任

計7名

〈会議内容〉

1. 開会

2. 議事

宇治市スポーツ推進事業にかかる令和6年度実施結果と令和7年度の進捗状況について
・事務局より資料1にもとづき説明

（会長）

宇治川マラソン大会が今回で40年以上続いているということに驚いている。

今、和歌山大学の教員とイベントの存続と衰退について研究を進めている。都市マラソ

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

ンを調査すると、主催者に特別な想いのないマラソン大会は大体10年くらいでつぶれている。

30年続いていても、コンセプトが分からなくなってきた、惰性で開催しており、最終的に終了してしまう。

主催者がイベントの歴史や、根幹にあるコンセプトを伝承し、継続していこうという想いをどの程度持っているかが、存続と衰退を分けているというのが仮説としてある。宇治川マラソン大会がスポーツ施策として体系化されている「楽しむ・つながる・ひろがる」のどこにあるかということ深く掘り下げ、参加者等に対する思いや、何のためにイベントを開催しているのかということをお忘れないように実施し、惰性的にならないようにしていただきたい。

(事務局)

昨年に宇治川マラソン大会を開催する意義について宇治市スポーツ協会や関係団体と議論した。

その中で単にマラソン大会を実施して、参加者に走ってもらうだけではなく、マラソン大会というイベントを通じて、様々な人と関わることによって地域の活性化ができるイベントであれば、実施する価値があるということを再確認した。40回目もそのコンセプトに基づいて進めていくが、実施においては様々なアイデアが必要と考えている。

(会長)

宮崎県の照葉樹林 綾マラソンでは、一度大会が終了したが、その後復活したという事例がある。

終了した理由としては、行政が主催として行っていたが惰性的となり、市長が変わったことをきっかけに終了となったと聞いている。

そこで、地元の方々が大会のコンセプトを、走ってもらうだけでなく、綾町の文化や教育を発信し、町を離れた若者が再び帰りたくなるような町にするための大会として復活させた。

確かにマーケティングや様々なツールを使って集客をする戦略はアイデアとしては必要だが、例えばこのマラソン大会を通じて、様々な方が関わって全体で盛り上げ、協力し合うところにコンセプトの根幹があるのであれば、そこに特別な想いを持って実施することによって意味がある。

(委員)

ここ2～3年で宇治川マラソン大会にトレーナーとして参加し、走り終わった方のマッサージをしている。

何千人のランナーの中で40～50名の利用者から聞く話として、県外の方やこの近隣に住んでいる高齢者の方、自身の実力を計りに来た部活動に所属する学生が多い印象である。

その中で大会が終了した後の行き先について尋ねたところ、帰宅するといった回答があ

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

り、私自身もったいないと感じる。

案内するとすれば源氏の湯であるが、他にも宇治市の魅力を発信して伝わるのがあればいいと思う。

(委員)

滋賀県で登山をしていた時に山を走るトレイルランに遭遇し、参加者らしき方に話を聞くと、自分が走るのは明日だが、前日に大会のボランティアとして過ごすと参加料が半額となると伺った。そのような組み合わせも考えられる。

(委員)

有名なイベントでも2つの課題を抱えている。1つ目は地元にお金を落とさないこと、2つ目はスポーツイベントの参加者はリピートしないことである。

面白いイベントであっても、今度は違うイベントに参加したいとなり、リピートしない。

リピートさせる方法、お金を落とさせる方法として、地元の人にどれだけ関わらせられるかがある。様々なイベントを実施する中で、関わりが生まれるとリピートする人の数が増え、お金も落とすというような結果が出た。

そのような仕組みを取り入れられると観光と併せて来た方にも喜んでいただけるマラソン大会となり、さらに続いていくと考える。

宇治川マラソン大会の参加者のうち、市民の比率はどの程度か。

(事務局)

府内と府外で算出しており、7割が府内である。

(委員)

宇治川マラソン大会の参加者は走り終わると帰る方が多いので、茶そばやあめ湯だけでなく宇治市・健康づくり食育アライアンス（うーちゃ）に加盟する団体など、市民団体によるキッチンカーや催しと連動できればよい。

(委員)

宇治川マラソン大会に関わって40年近くなるが、内容の変更が都度ある。

過去には規模の大きい企業が協賛され、抽選会の景品が自転車ということがあったため、抽選会が混雑し待たせてしまうことがあった。その間、太陽が丘に滞留されると、主催者としては片付けできないという経緯などもある中、以前盛大にあった参加賞も徐々になくなっていった。

新型コロナウイルスの影響により数年中止され、また新たに再始動している中で、宇治川マラソン大会がスポーツ競技として40年続く歴史があるという捉え方をする必要があると思ったし、ずっと続いてほしいと願っている。

高低差が大きいためリピーターが少ないという中で、日頃走れない道を走ることができる点について良かったという感想もあるので、そこを上手に取り込み、観光を含めた仕組

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

みを考える必要があるが、警備や交通、警察との関わり等の問題に加え、マラソン大会が市民に浸透していないことが最近分かってきた。

まず市民に周知し、市から盛り上げて県外の人迎えるといった施策を考えていく必要がある。

(委員)

宇治川マラソン大会の第1回目から走路員を担当している。

これまで苦情は多かったが、新型コロナウイルスの影響による中止以降に開催された大会ではガードマンが増え、若干苦情が減った。

参加者が持って帰られるものの中に宇治市の観光案内を入れているが、応援に来た人が観光して帰るということも考えられる。走路員に観光案内を持たせることも検討いただきたい。

(会長)

リピート率とともに海外の参加者の割合はどの程度か。

(事務局)

リピート率が43%。参加者は申込みが2,057人で、当日走者が1,834人である。海外の参加者集計は取っていない。

(会長)

リピート率が90%を超える大会に鹿児島で行っているマラソンがある。住宅の近くを通過するコースがあるため、毎年住民がおもてなしで団子などを提供している。したがって、参加者はタイムにこだわる人ばかりではなく、走ることを止めて食事をするなど、地域とのつながりが感じられるので参加者が増加する。

宇部市との交流大会について、現状のスポーツ交流からもう一步踏み込み、宇部市と交流している意味を再確認し、プラスアルファの部分を仕掛けていただきたい。

フライングディスクについて、小中学校の義務教育関連のところに関わる部分があるのか。

(事務局)

今までの取組として、学校でフライングディスクを実施していただくことを目的に、小中学校の教員向けにフライングディスク講習会を実施した。

また、令和7年度の取組として宇治市長杯アルティメット競技宇治大会を基本的には競技大会という形で実施するが、競技間にアルティメット競技を体験してもらう取組を検討している。

(会長)

授業への取り込みは学習指導要領で決まっているため難しいと考えられるが、フライン

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

グディスクのことであり、ぜひ教授能力が上がるようなレクリエーションを引き続き実施したうえで、教育委員会と協力しながら体育祭で取り入れるといった工夫をしていただきたい。

(事務局)

学習指導要領上、フライングディスクを授業で実施できるので、今年度、神明小学校の1月から開始する授業で実施していただけることとなった。市の予算で講師派遣も行い、そういった部分で関りを続けていく。

(委員)

来月にPTA主催のスポーツ交流大会があり、ボッチャを行うことになっているが、参加者が少ない。子供から大人まで誰もができる魅力的な部分はあるが、参加者が増えずに苦戦している。PTAに絡ませてドッジビー等のフライングディスクを取り入れることもアイデアとして考えられる。

(委員)

フライングディスクのまち宇治というのはワールドマスターズゲームズが終了しても続けられるのか。ワールドマスターズゲームズがゴールではないという認識でよいのか。

(事務局)

まずは、ワールドマスターズゲームズまでの期間において機運醸成というところが第1目的としてある。それをきっかけにフライングディスクというツールを使ってスポーツの実施率を上げていくことが目標としてあるため、大会終了後も続けていく想定である。

(委員)

例えば、10年後に宇治市で10%の人が実施している競技に育てるといったような数値と掛け合わせて考えると、目標感が持てると感じた。

(委員)

資料1の11ページにある北小倉地域公園整備事業費について、スポーツに親しむ方の人口を増やしていかなければならないという中で、今後の整備事業はどのようなスケジュールで進められるのか。

(事務局)

昨年度におおむねの基本構想を立て、今年度から設計を行うスケジュールとなっている。一部工事が可能であれば進めていくと聞いており、跡地全体としては令和9年度から段階的に供用開始し、最終的に令和10年度以降に全体が出来上がる計画案となっている。

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

アーバンスポーツなどを楽しむ施設に改修し、西宇治公園と立体的なスポーツ・遊びの拠点を整備するとのことだが、具体的に内容が決定されるのはいつ頃か。

(事務局)

現在、様々な事業者と調整しており、具体的な内容については今年度に決定され、来年度の予算に計上される見込みであると聞いている。

(会長)

高知空港の近くにある、なんこく防災パークにスケートボードができる施設が建設され、今まで体育館に近寄らないような人たちが近寄るようになった。

塔南高等学校の跡地利用に関する事業計画が進められており、京都ハンナリーズが練習場の建設を求めている。練習場以外の部分は地域の方が交流できる場所するとのこと、今までその施設に関わらなかった人が関わるようになることは重要であるため、このアーバンスポーツという部分にはメッセージ性を感じる。

(委員)

高齢化の進んでいる地域なので、若い人が来ていただけたところになればいい。

令和7年度の宇治市スポーツ振興に係るアンケート調査結果について

・事務局より資料2にもとづき説明

(会長)

スポーツを楽しむについて、日本全体の成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は52%程度だと記憶している。

また、日本全体の週3回以上の運動・スポーツ実施率については30%程度なので宇治市は双方において上回っている。

スポーツがっつなげるについては、体育振興会や宇治市スポーツ協会の加盟団体数、ボランティアがスタッフとして関わったことのある市民の割合が減少しているという状況であるため、高齢化が進行していく観点からもっつなげるという部分をどのように考えていくかが課題である。

ワールドマスタースゲームズ2027関西の認知状況については、2.3%となっており由々しき問題である。

京都マラソンの際に行った調査で、ワールドマスタースゲームズ2027関西の認知状況について問うたところ、新型コロナウイルスの感染前で20%程度、それ以降の3年前程度から6%程度となっている。

告知だけの問題ではないため、何か手立てを考える必要がある。

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

市主催・共催している運動・スポーツ事業について、参加したことがあるイベントで多かった回答として市民スポーツまつりがあり、令和6年度の延べ参加人数が約13,000人となっているが、参加人数が増えた要因があるのか。

(事務局)

これまで行ってきた体力測定を継続して実施しているほか、新たに様々な種目も取り入れる形で拡大している。

一方で、前回開催となる平成30年度においても延べ参加人数が13,000人に近い数字となっている。

令和6年度は多くの方に参加していただき、ご好評の声もいただいているため、良いイベントになってきている実感はある。しかし、認知度が高い数値ではないためその点は課題である。

(委員)

先日、親子で楽しむ英語でDANCEを見学した際に、大人から幼児までたくさんの家族が参加しており、盛況だった。スポーツを安全且つ楽しで行いたいという思いがつながって集客率が高くなっており、そのつながりで市民スポーツまつりなど様々なイベントに派生していると感じる。このような取組が他事業においても普及できればよい。

(事務局)

昨年度の市民スポーツまつりにおいて、新型コロナウイルス感染前と比較して変わったところとして、親子連携事業の一部である、英語でDANCEや体幹かけっこ教室等がある。

また、山城総合運動公園と連携して中央広場でのキッチンカーの展開や、子供が参加したくなる内容としてミニバイクの乗車体験等を実施することにより、賑やかなイベントにできた。

したがって、新型コロナウイルス感染前と同じ規模の人数が確保できていることは、逆の意味で捉えると、本来、参加人数が減少するところが増加したと表現することができると思う。

そういった取組が上手く人を引きつけることができたため、昨年度の経験を基に今年度の参加者数増加を目指す。

(委員)

子供たちが自分から興味持ってくれたらいいと思う。訪問マッサージの際に寝たきりではあるが元気でいらっしゃる患者は、過去に運動をしていたという人が多い。運動を行うことは今後の健康面につながってくると感じていたので、このような取り組みを続けていきたい。

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

北小倉地域公園整備事業について、どの地域も高齢化していることを踏まえ、障害のある方に加え、高齢者等にも特化した部分を望む。

市民スポーツまつりにおいても、足腰が弱っているような方が楽しめる、スポーツをするきっかけづくりになるようなものがあれば家から出るきっかけにもなる。外へ出かけられる高齢者が1人でも増えていくように、障害のある方も含めて参加できるイベントにしていきたい。

(委員)

両親が視覚障害者で、今年から視覚障害者が競技されるサウンドテーブルテニスをしており、今年、滋賀県で行われる国民スポーツ大会に出場するため、毎日練習に励んでいる。

目標を持つことは大切で、スポーツはやる気にもさせてくれるうえ、外に出る機会も与えてくれる。今まで出会えなかった人にも出会えるきっかけとなる。

障害を持った人もそこで閉じこもってしまうのではなく、外に出る機会を作るために健常者と障害者の方も一緒にスポーツができる機会をつくっていただきたい。

(委員)

そのような取り組みがインクルーシブの社会の一つとなる。

(委員)

宇治市が年間31回実施しているニュースポーツひろばの参加人数が前年度よりも増加している。

年に1回程度、体育振興会や小学校と連携し、身近にあるイベントを地元で周知できればさらに盛り上がっていくのではないかな。

(委員)

近年、自身の体育振興会では体の不自由な人もできるフライングディスク、アキュラシーを実施しており、子どもにも好評である。

健康づくり推進課と体育振興会が連携し、スポーツフェアを実施する際には血圧測定等を行っている。スポーツと健康は同等の意味を持っている。単なるスポーツだけではなく健康に関わることを実施することで、高齢者も参加されるため、そのような内容に取り組むことを心掛けている。

健康づくり推進課が健康講座を実施しており、その時に地域を30分程度ウォーキングする内容を提案した。一つの団体で一つのことをやるということは難しくなっているため行政が主導で行い、体育振興会として協力することで故郷づくりを進めていく。

子どもを対象とした場合、その親も一緒に参加するため参加者数は2倍になる。また、インセンティブがあると参加者数が増加する。高齢者にとってはスポーツを含めた様々なイベントにおいても交通の便を確保しなければ参加しにくくなる。

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

観光という立場から宇治市のスポーツ行事を見ると、観光客の方が参加できる大会が少ない。観光客の方が参加できるイベントが増えてきているので検討いただきたい。

宇治市でも夕方まで走っておられる方が多くいると思うが、近年マラソンブームが復活してきて、体が衰えないように観光先や出張先でも走られる方がいる。大阪ではランニングステーションという、着替えてシャワー浴びることができる施設が数多くある。宇治市も宇治川沿いを走ることができたらいい練習場所になる。京都駅から15分程度で宇治市に來られて、シャワー浴びることができれば、観光客が増加すると考える。そのような施設が観光等のきっかけとなって直帰することなく食事等でお金使って帰られるので、検討いただきたい。

宇治川マラソン大会終了後に、市内を回るようなシャトルバスがあると、参加者は直帰せず、源氏の湯や最寄り駅で買い物して帰ると考える。

(委員)

京都大作戦は約20,000人の来場者数となっているが、宇治市にどれだけお金を落としたのかと言えば、宿泊費用が多く占め、宇治市で宿泊されない方が平等院や地元で飲食する等で立ち寄ることはほとんどないため、様々な部分で改善の余地がある。

(会長)

観光地でのマラソン大会は前夜祭を行い、飲食等のイベントで盛り上がっている。

(委員)

割引等と抱き合わせでやることが大事。

企業がこのような事業に参加していただく中で、今まで企業向けの周知が出来ていない。例えば商工会議所の機関誌に入れる等、企業向けに周知を図ることも大事。

(委員)

年に1回、スポーツイベントを社内で実施しており、今年はフライングディスクやキンボールを含めてアグレッシブに取り組んだ。

今年から企業にも健康づくり・食育アライアンス(うーちゃ)への加盟案内をしている。今まで健康づくりや食育に関する団体を勧誘し、加盟団体数が120団体となった。今年度の目標について加盟団体数を200団体に伸ばすこととし、企業の健康意識を高めていくということで、社員に向けての福利厚生観点から運動や食育を啓発している企業に加盟を促進している。スポーツを取り入れる形で健康啓発を促進していきたい。

(会長)

一つのことが常に派生するように仕掛けをしていただきたい。

令和7年度 第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

7. 閉会

- 事務局挨拶